

年月日	出来事	特記事項
1975年ごろ?	コカコーラが景品に「アメリカン・ヨーヨー」を付け、全国的にヨーヨーブームが発生する。	
1978年	「大須大道町人祭(愛知県名古屋市中区)」第1回目が開催される。	終戦直後、「名古屋十名勝」に堂々入っていた盛り場・大須も、昭和40年代には商店街の衰退が顕著になり、危機感を抱いた商店主の若手有志が中心となり、大須観音でかつて行われ中断していた縁日「庶民の祭り」で再興を図ったのがきっかけ。
1982年	IJA Santa Barbara Festivalに、「日本ジャグラーズ協会」を名乗る日本人のグループ約8名が参加した。	東京・原宿付近を拠点にしていたらしい。Rec.juggling に記録が残っている。 当時の事情をご存知の方は、ご一報ください。
1984年1月4日	横浜・野毛に有限会社「むごん劇かんぱにい」設立。	フランスより帰国したパントマイムのIKUO三橋氏が大道芸、舞台でのサーカス芸などを演じるようになる。 1989年8月1日に株式会社化。1994年4月頃からジャグリング用品を本格的に販売する。
1986年	「野毛大道芸(神奈川県横浜市)」第1回目が開催される。	横浜駅西口の開発やMM21(みなとみらい21)の開発により野毛地区が衰退していき、危機感を抱いた地元商店主らが野毛の振興策として1986年から「野毛大道芸フェスティバル」を始めた。2005年からは、三つの組織による大道芸フェスティバルがエリアを分けて開催。(「野毛大道芸」、「ヨコハマ大道芸」、「みなとみらい21大道芸」)
1988年10月-1989年3月	大神楽の海老一染之助・染太郎兄弟が「お染ブラザーズ」としてフジテレビ「笑っていいとも」のレギュラーとして出演する。	長い芸歴の中でも、この前後2、3年のマスメディア出演は際立って多い。それに伴い、知名度、人気も急上昇し、1989年3月にはCD「おめでとうございます!!」をリリースするまでに至った。2002年2月2日に兄の染太郎氏が逝去し、以降は染之助氏単独での活動となる。
1989年9月1日	「クラウン・カレッジ・ジャパン」開校	米 Ringling Brothers and Barnum & Bailey Circus の Clown College の日本校として設立された、日本初の道化師養成学校。卒業生の多くは現在各方面で活躍中。3年後の1989年8月に閉校。 主な出身者(敬称略): ダメじゃん小出、三雲いおり、ダンディーGo、Kaja、PONTA、ハンガーマンKENKEN、ななな、Rone&Gigi(OPEN SESAME)、クラウンJIN、川原彰、プーリィ・ウーリィ・カンパニー
1990年	北里大学相模原キャンパスに「北里大学ジャグリング・クラブ」が創立される。	現存する日本最古のジャグリング・サークルと思われる。創立者は同校の講師であった Joseph Dias 氏。キャンパス事情により断続的に活動し、本格的にサークルの形を成したのは93年ごろで、部としての大学公認は1995年。 http://kitasatojuggling.sakura.ne.jp/ <引用> Juggler's World: Vol. 43, No. 4 Juggling in Japan (Zen & the Art of Starting a Jyagulingu Club at a Japanese University) by Joseph Dias (1991)
1991年夏	第1回天保山ワールドパフォーマンスフェスティバル開催(大阪)。	以後、毎年夏にコンテスト形式で開催される。第1回は、招待された海外パフォーマーのみが出演した。
1991年9月	「日本のお手玉の会」が発足される。	日本の伝承文化であるお手玉遊びの全国、また世界への普及活動ならびに保存を行い、世代や地域を越えた交流を図るために発足。 http://www.shikoku.ne.jp/otedama/
1991年10月31日	インターネット・ニュースグループ rec.juggling が設立され、世界中のジャグラーが情報を交換する場となる。	それ以前に1990年からメーリングリストが稼働していた。

日本ジャグリング界 年表

2010/3/2

1992年	この頃、大阪城前で大道芸を演じるパフォーマーが出現し始める。関東でも、原宿、新宿、渋谷の歩行者天国、井の頭公園、横浜の山下公園などでパフォーマーが芸を演じていた。	当初は、日本在住あるいは一時滞在の外国人パフォーマーがほとんどだった。1990年代前半から中期に活躍していた主な在日外国人パフォーマーは、関東でコロラド・ジョーンズ氏、デイビッド・クレイパッチ氏、ピーター・フランクフル氏、デビッド・ラムゼイ氏など、関西でブッチ・リード氏、ディブ・レイブ氏、ブライアン・ホルス氏など。その後、日本人パフォーマーが増え始める。 原宿、井の頭公園、山下公園などで大道芸がゲリラ的に行なわれるようになったのは、いつ頃からなのでしょう？
1992年4月11日	パソコン通信NIFTY-SERVE「マジック・フォーラム FMAGIC」に「ボードビル芸の部屋」が開設される。(1995年に「バラエティアートの部屋」と改名)	FMAGICは1988年12月10日に開設。バラエティアートの部屋ではジャグリングの話題が中心に。「JuggleMaster (NEC PC9801 DOS版)/松岡顕 作」はこのフォーラムで発表された。ちなみにパソコン通信フォーラムの開設期間は、1987年4月から2006年3月31日まで。
1992年5月-8月	シルク・ド・ソレイユ「ファシナシオン」日本公演	日本のみの特別編成プログラム。
1992年11月	静岡市で第1回静岡大道芸ワールドカップが開催される。静岡市を代表する大規模なイベントとして定着し、海外・国内から多数のパフォーマーを招聘・選抜し、市内街頭でのパフォーマンスによって観光客を集めた。	1995年以降の数年間、期間中の朝に駿府公園内でアマチュア・ジャグラーの練習会が自主的に開かれ、それまで交流する機会が乏しかった東西のジャグラーの交流の場となった。また、このイベントのために来日した海外のジャグラーが国内のサークルを訪問することもあり、黎明期のアマチュアにとっては一流のジャグリングを間近に見る好機であった。
1993年	静岡に「大道芸同好会」が発足する。後に「静岡大道芸サークル WAPS」と改名し現在に至る。	http://www.h4.dion.ne.jp/nonthewaps.htm
1993年5月	東京大学の学生を中心にサークル「マラバリスタ」が創立される。	初代部長・中嶋潤一郎氏。顧問・ピーター・フランクフル氏。以後、人数・レベルともに関東を代表するサークルとなる。 http://www.malabaristas.com/
1993年夏	IJA Fargo Festival で、マサヒロ水野氏が People's Choice Award を受賞する。	
1993年10月	第1回モザイク大道芸人コンテスト(神戸ハーバーランド)開催。	主催はデビューエンタープライズ。
1994年	東京の筑波大付属駒場中学・高校にジャグリング同好会ができる。	関係者の卒業に伴い一度消滅し、1997年に復活して現在に至る。 http://www.geocities.co.jp/Berkeley/1242/
1994年3月1日-9	シルク・ド・ソレイユ「サルティンバンコ」日本公演	Miguel Herrera がバウンス・ジャグリングで出演。
1994年5月1日	雑誌「科学朝日/朝日新聞社」発行	特集記事として「大道数学者ピーター・フランクフルのすべて」が掲載され、ポールジャグリングの仕方やサイトスワップの解説が恐らく雑誌では初めて本格的に説明された。
1994年5月ごろ	rec.juggling の情報を取りまとめる形で、Barry Bakalor 氏ら有志が JIS(Juggling Information Service) を構築する。以後、数年に渡って、世界中のジャグラーにとって情報の宝庫となる。	この頃は、インターネットが普及し、Web サイトが作られ始めた「Web 黎明期」であり、JISは先進的な試みであった。Barry Bakalor 氏が多忙になったため、JIS の更新は滞るようになり、1998年12月を最後に、一部を除いて更新が停止した。 http://www.juggling.org/
1994年8月1日	IJA Burlington Festival で、江戸太神楽十三代・鏡味小仙(現・丸一仙翁)氏が Founder's Award を受賞する。	以後、94,95,96,97 と IJA Cascade of Stars Show にマサヒロ水野氏、石川健三郎氏らと社中として出演。
1994年11月ごろ	東急ハンズで JuggleBug 社製ジャグリング用品、Babache社製ディアボロが販売され始める。輸入は DPグループ。	
1995年ごろ	オーストラリアでYOHO社を中心にディアボロのブームが発生する。後年、バンダイにより日本へ輸入される。	

本年表の内容には、作成者の経験や活動領域から偏りが、あるいは間違いがあり得ます。
お気づきの点は、何卒ご指摘を含めご意見等をお寄せ下さい。連絡先(チャン助) misc@chansuke.net

1995年	この頃、アマチュアで組織だってジャグリングの活動を行っていたのは、東大を中心としたマラバリスト、北里大学ジャグリングクラブ、WAPS、慶応大と東北大の奇術部ぐらいで、あとは個人レベルだった。電子メール、ニューズグループ、パソコン通信などの手段により、やっと連絡をとることができるようになった段階。技術、知識の習得は海外の書籍とビデオが頼りで、道具はすべて海外のショップからの個人輸入または自作であった。個人輸入が比較的楽に行なえるようになったのも、電子メールとクレジットカードのおかげであった。	
1995年	国立劇場養成科が太神楽(大神楽)の研修生制度を開始する。	
1995年5月	「JuggleMaster (NEC PC9801 DOS版)/松岡顕 作」リリース	ボールジャグリングのシミュレーションソフト。様々な機種に移植されている。同種のソフトは数多いが、シンプルで使いやすく、独自のパターンを記述できることで世界中に広まった。特に Dancey's Devilment は、想像上の技がJuggleMaster上で映像化され、実際の技の実現につながった点で特筆に価する。
1995年7月7日	ジャグリング・メーリング・リストが設立され、日本人ジャグラーの情報交換の場のひとつとなる。	当初のサーバーは京都大学数理解析研究所の関係団体 KABA にあった。初代世話人は増田和悦氏。この2年くらい前より、インターネット上のメールのやり取りを介して、日本各地に点在したジャグラーが連絡をとり始めた。この数年後には、個人 Web サイトの掲示板が多数出現し、情報交換の場が多様化・分散化した。 http://www.jah.ne.jp/emda/juggling-ML/
1995年9月17日	代々木公園で在日外国人ジャグラーを中心にした集會が行なわれたらしい。	
1995年12月	神奈川県綾瀬市で、市のジャグリング講座(講師:マサヒロ水野氏)をきっかけに市民サークルJAMが発足する。	
1996年1月6日	東京・代々木公園でNIFTY-SERVE「パラエティアートの部屋」のオフ会が開かれ、NIFTY-SERVE外からも参加者が集まった。	おそらく、日本における最初の数十名規模のジャグリング・イベントと思われる。
1996年3月22日 - 10月20日	シルク・ド・ソレイユ「アレグリア」日本公演	ジャグリングは演目になし。
1996年5月1日	大阪で、当時のデビューエンタープライズ所属パフォーマーを中心にした「ジャグリングクラブDEBUT」(97年よりJUGに改名)が発足する。発起人はMr.アパッチ氏。	2006年6月、練習場所として借りていた施設が閉鎖されたのに伴い、解散した。
1996年6月1日	IJA が Web サイトを開設。	http://www.juggle.org/
1996年夏	IJA Rapid City Festival の Cascade of Stars Show に、曲独楽・筑紫こま鶴(Komazuru)氏が出演する。	
1997年	横浜大道芸倶楽部(YDC)発足	http://members.at.infoseek.co.jp/info_ydc/
1997年4月30日 - 2000年9月13日	TBS「しあわせ家族計画」放映	お手玉、シガーボックス、デビルスティックなどが題材に取り上げられる。一般から募集した家族のお父さんが与えられた課題に挑戦し、一週間後にスタジオで成功させたら賞品がもらえる。その練習風景や家族の応援をVTRで撮影し放映する。それまで日本人にはなじみが薄かった「ジャグリング」という語の浸透に大きく貢献した。番組自体も成功し、同種の番組企画が世界各国に輸出される。

1997年4月	ハイパーヨーヨー(バンダイ)発売	小学生向け雑誌とのタイアップ、デモンストレーターのカリスマ化、玩具店によるレベル認定、コンテストなどのマーケティング戦略により、日本中の子供を巻き込んだヨーヨーブームを引き起こした。その結果、日本の技術レベルが著しく向上し、国際大会で日本人出場者が数多く入賞するとともに、世界的にも多くの技術革新があった。当初は米メーカー(Duncan, Yomega) 製品のOEMだったが、後に自社開発を行なった。2年弱でブームは下火になったが、2005年より、「ハイパーヨーヨー」のプロモーションが再開されている。
1997年9月	NPO法人「国際サーカス村協会」設立	群馬県みどり市(旧 勢多郡東村)にサーカス資料館を設立、廃校を拠点としたサーカス・アーティストの養成を目指すサーカス学校の設立などの活動を行なう。
1997年10月10日	大阪・中之島公園でNIFTY-SERVE「パラエティートの部屋」のオフ会が開かれ、20名程度が集まった。	関西での横断的な集会としては初めて？
1998年ごろ	ニュージーランド、オーストラリア、ヨーロッパでポイの流行が始まる。クラブやレイブといった音楽/ダンス関係のコミュニティにまず浸透し、従来のジャグリング文化と融合した。日本には2、3年遅れで波及した。	欧米から直接伝播したルートとタイなどへの旅行者から伝播したルートがあるようです。
1998年ごろ	日本において、従来のジャグリング愛好家とは違う流れでフラワースティックが一部に流行した。	その何年か前にアメリカで LunaStix などが行なったプロモーションの結果、フラワースティックがストリート・ファッション系の文化に受け入れられ、それが日本へ伝わったものと推測される。
1998年	「パフォーミング・アーツ・カレッジ」にサーカスクラウン講座開講。サーカススキルの指導が本格化。	「パフォーミング・アーツ・カレッジ」は1976年、あらい汎氏(汎マイム工房主宰)によってパントマイム、クラウンの研修スタジオとして創立された。金井圭介氏、くるくるシルク、など多くのパフォーマーを輩出する。 http://www.hanmime.com/
1998年3月	東京でジャグリングショップ・ナラン八営業開始。	ジャグリング用品専業から事業を拡げ、バルーン、バー用品を扱う。社長は中嶋潤一郎氏。 http://www.naranja.co.jp/
1998年4月	松岡顕氏を中心に、大阪大学に「ジャグリングサークル Patio」が発足。	http://www.patio-web.net/
1998年5月末	京都大道芸倶楽部「ジャグリングドーナツ」が発足	中止になった Kit Summers 大阪ワークショップで初代メンバーが顔を合わせ、創立のきっかけとなった。ドーナツの名はメンバーが尊敬していた Tony Duncan 氏の得意技にちなむ。 http://juggling-donuts.org/
1998年6月8日	東京都八王子青年の家を借りて、Kit Summers 氏によるワークショップが開催される。	国内では初めての本格的ジャグリング・ワークショップ。大阪でも開催が予定されていたが、講師のパスポート盗難被害によりキャンセルされ、自主練習会となった。翌年も、東京、大阪で開催された。
1998年7月	IJA Prim Festival と併催されたヨーヨー世界大会にバンダイの引率で日本の少年たちが多数参加し、優勝、入賞を果たす。	翌年 1999 年のヨーヨー世界大会は、米本土を離れ日本に近いハワイで開かれた。1999年を最後に、日本でのヨーヨーブームは終焉を迎えるが、トップクラスの日本人ヨーヨープレイヤー達は活動を続け、以後も世界大会での活躍を続けた。
1998年9月1日	情報誌「ジャグラーズ通信」発刊	個人発行の情報誌。5号より「ジャグバル」と改名。ちなみに当時のジャグリングのクラブ・サークルは、9団体程度だった。
1998年10月1日	IJA会報の編集態勢が変わり、誌名も Juggler's World から JUGGLE に変わる。	JUGGLE 第1号の記事は、一時ジャグラーを引退していた Anthony Gatto のカムバックに関するインタビュー、著名人に対する「ジャグリングの将来」についてのアンケートなど。
1998年10月1日	埼玉県所沢市に「所沢ジャグリングクラブJUGFLY」が発足。	http://www4.airnet.ne.jp/ichiro/jugfly/jugfly.html
1999年ごろ	従来はバーテンダーによって行なわれてきた曲芸「フレア・バーテンディング」がIJAフェスティバルなどでジャグリング界と交流を持ち始める。	

1999年3月	ハイパーディアプロ(バンダイ)発売	「ハイパーヨーヨー」の後、「ジターリング」を経て、バンダイの「アクティブトイ」戦略の第3弾として発売される。オーストラリア YOHO 社の製品、デモンストレーターを輸入し、プロモーション活動を行なった。「ハイパーヨーヨー」ほどのヒットにはならなかったが、「ハイパーヨーヨー」「ハイパーディアプロ」をきっかけにジャグリングを始めた若年層は多い。「ハイパーディアプロ」はバンダイの登録商標で、「ディアプロ」としたのはマーケティング上の理由だった。
1999年4月1日	「ジャパン・ジャグラーズ・アソシエーション(JJA)」設立がrec.jugglingにアナウンスされる。	発起人はマサヒロ水野氏。1995年頃から設立の準備が行なわれ、1996年12月10日には設立記念公演が行なわれている。その後、一時停滞。99年4月に再度設立宣言を行ない、横浜で Dick Franco 氏のワークショップなどを主催したが、団体としては存続しなかった。
1999年8月30日	NPO法人「日本ジャグリング協会」設立。	初代理事会(理事:中嶋潤一郎、池田洋介、加藤邦道 監事:祖父江正) http://www.juggling.jp/
1999年10月29日-31日	JJF1999開催される。日本ジャグリング協会主催のJJF(Japan Juggling Festival)第1回目が開催される。(東京都府中青年の家)	参加者数:約40人 ゲスト:Michael Menes, Jay Gilligan チャンピオンシップ入賞者 個人部門:岡田琢身/青野卓也/森田恒雄 チーム部門:System VII
1999年11月11日	TV東京「TVチャンピオン(全日本ジャグラー王選手権)」放映	Mr.アパッチ(優勝者)、石川健三郎、KAJA、小出直樹、ミス・サリバン出演。 http://www.tv-tokyo.co.jp/tvchamp/
2000年2月	日本ジャグリング協会会報「Shall We Juggle?」発刊	日本ジャグリング協会・会報 この当時、掲載されているジャグリングのクラブ・サークルは、15団体。
2000年3月29日	第1回ジャグリングドーナツライブ	Tony Duncan 氏のワークショップと併催され、Tony Duncan 氏との共演と言う形で、「ジャグリングドーナツ」が主催した公演で、ジャグリングのみの舞台興行の先駆けとなる。以後、毎年部員のみで興行を続け、演出面でも高い評価を得る。
2000年8月25日-27日	JJF2000開催される。日本ジャグリング協会主催のJJF(Japan Juggling Festival)第2回目が開催される。(京都市北文化会館[25日]、京都厚生年金休暇センター[26,27日])	参加者数:約80人程度 ゲスト:Sean McKinney, Mr.アパッチ、ロト&ピンゴ チャンピオンシップ入賞者 個人部門:河村達(Dr.ニャートン)/松浦和也/岡田琢身 チーム部門(2チームのみ出場):池田洋介&渡辺彰/さくら組
2000年10月12日-2001年11月25日	シルク・ド・ソレイユ「サルティンバンコ2000」日本公演	マリア・チョードゥがバウンス・ジャグリングで出演。
2001年3月12日	匿名巨大掲示板「2ちゃんねる」に「ジャグだ、Jugglingだ！」スレッドが作成される。匿名性に代表される「2ちゃんねる」文化の弊害として誹謗・中傷問題も一部に見られたが、全般的には他に比べて健全なスレッドとして以後数年間存続する。	
2001年4月	玩具メーカーのタカラ(現タカラトミー)が女兒向けテレビアニメ「コメットさん」とタイアップした、実用性のある「トワールバトン」を発売し、女兒の間でバトントワリングが小ブームとなる。日本スポーツバトン協会が入門ビデオなどを監修し、バトントワリング人口が増加した。	
2001年5月24日	NPO法人「しずおか大道芸のまちをつくる会」設立。	http://www.geocities.jp/shizuoka_simarukai/

2001年6月	Internet Juggling Database (IJDb) が開設され、世界各地のボランティアによるジャグリング関連情報の集積が始まる。	英 Colin Eberhardt (Colin E.) 氏が中心となり、PHP, Wiki などの新技術を用いて、多数のボランティアが協調して編集できる仕組みを構築した。更新が停止した JIS に代わる役割を担う。この頃までに、インターネットの普及が大きく進み、プロ/アマチュアを問わず、多くのジャグラーが Web サイトを持ち、プロフィールやビデオを公開するようになった。特にブロードバンドの普及により、ビデオによる技や演技の公開が盛んになり、ジャグリング技術の進歩に大きな役割を果たした。 http://www.jugglingdb.com/
2001年7月26日	IJA Stage Competitions (Madison, Wisconsinにて) インディビジュアル決勝出場 (松浦昭洋 (のちに球斗), Sphere)	日本人で初の予選突破。透明な球体の中でボールを操る独創的な器具を使用。
2001年8月16日 - 18日	JJF2001開催される。日本ジャグリング協会主催のJJF(Japan Juggling Festival)第3回目が開催される。(愛知県名古屋市長段見スポーツランド)	参加者数: 約130人 ゲスト: Brian Patz, Dr.ニャートン チャンピオンシップ入賞者 個人部門: 上田寛/佐藤信春/矢部亮 チーム部門(1チームのみ出場): シンクロニシティ
2001年9月1日	原宿・ホコ天廃止	都内各地の歩行者天国も次々に廃止される。
2001年11月6日	米のジャグリング用具メーカー Renegade Juggling の日本法人として「ラネゲード・ジャグリング・ジャパン」が兵庫県西宮市に開業する。	経営者はアメリカ人プロ・ジャグラー Dave Rave 氏。 http://www.renegadejuggling.jp/
2002年3月	有志により日本ジャグリングデイが東京・代々木公園で開催され、数十人が集まる。	2回ほど開催されて消滅。
2002年4月19日	大道芸人公認制度「ヘブンアーティスト制度」発表。	東京都石原慎太郎都知事により創設。2002年9月9日から140組が13施設で活動。
2002年7月17日 - 18日	IJA Stage Competitions (Reading, Pennsylvaniaにて) ジュニア部門(1位:矢部亮)	日本人で初の入賞・優勝
2002年10月5日 - 6日	JJF2002開催される。日本ジャグリング協会主催のJJF(Japan Juggling Festival)第4回目が開催される。(神奈川県川崎市とどろきアリーナ)	参加者数: 約180人 ゲスト: Dana Tison, シリウス チャンピオンシップ入賞者 個人部門: あじわいココア/大塚剛史(ファリウ)/山田純也 チーム部門(1チームのみ出場): add
2002年12月8日	NPO法人「大道芸支援協会 そら」設立。	http://npo.ddg-sola.jp/
2003年ごろ	この頃より、従来よりも更新が簡単にできるブログ(blog)形式の個人サイトが主流になり、数も増える。	
2003年2月7日 - 2004年4月4日	シルク・ド・ソレイユ「キダム」日本公演	ボール・ジャグリングは控え演目(Edward Skwirsky)。縄跳びの田口師永(のりひさ)氏がソロ・パートで出演。狂言回しのジョン役オリジナルの John Guilky 氏はすでに降板しており、帽子掛けルーチンからジャグリング部分は省かれていた。
2003年2月27日	TV東京「TVチャンピオン(第2回ジャグラー王選手権 -史上最強の曲芸師ジャグリング日本一決定戦-)」放映	矢部亮(優勝者)、タック、松浦昭洋、三雲いおり、Mr.アパッチ http://www.tv-tokyo.co.jp/tvchamp/
2003年6月14日	日本ジャグリング協会の臨時総会を兼ねて、World Juggling Day の集会在東京・代々木公園で開かれる。	WJDは協会の行事ではなく、誰が主催しても良い世界的同時多発イベントなので、以降、米屋遊氏など有志の呼びかけによって代々木公園他で毎年開かれるようになった。

2003年7月	IJA Stage Competitions インディビジュアル出場(上田寛、のちにリスボン上田)	
2003年8月22日 - 24日	JJF2003開催される。 日本ジャグリング協会主催のJJF(Japan Juggling Festival)第5回目が開催される。(宮城県仙台泉体育館)	参加者数: 約130人 ゲスト: Vova&Olga、矢部亮、ハードパンチャーしんのすけ チャンピオンシップ入賞者 個人部門: 桔梗崇/今野佳裕(ジョリオ)/嶋崎仁哉 チーム部門: 桔梗ブラザーズ
2003年10月18日	第1回三多摩(三玉)ジャグリングフェスティバルが開催される。 3ボールに絞ったローカルな1日型フェスティバル。	電通大Passage、農工大@ジャグ、所沢JUGFLY、小平ジャグリングクラブなどの共催。2006年現在で第4回まで開催。
2004年3月	Francis Brunn 氏が逝去。	
2004年6月	JJF2000のゲストだったSean McKinney氏が逝去。	
2004年6月19日 - 20日	JJF2004開催される。 日本ジャグリング協会主催のJJF(Japan Juggling Festival)第6回目が開催される。(名古屋市栄・オアシス21)	参加者数: 約250人 ゲスト: Yohey&Kazuho(MJ COOL)、こまのおっちゃん(日本独楽博物館館長) チャンピオンシップ入賞者 個人部門: 森田智博/久米総文/カレーくん チーム部門: 桔梗ブラザーズ/おじゃま/スピニングマスターズ
2004年7月	日本フレア・バーテンダーズ協会(FBA Japan)設立。	前身の日本フレア・バーテンダーズ・ネットワーク(FBN)は2000年8月に発足。 http://fba.jp/index.html
2004年7月13日	IJA Stage Competitions(Buffalo, New Yorkにて) インディビジュアル部門(1位:矢部亮、ディアボロ)	個人部門で日本人初の優勝
2004年10月29日 - 2005年11月27日	シルク・ド・ソレイユ「アレグリア2」日本公演	
2004年11月13日	東京・代々木公園でデビルスティック、フラワースティック、スタッフなど「棒もの」に絞ったフェスティバル「第1回 Fanta-Stick」が開催される。	2006年現在で第3回まで開催。
2004年12月	米ラスベガスでシルク・ド・ソレイユのショー「KA」の公演が始まる。パントワリング世界チャンピオン高橋典子氏が準主役でオリジナル・キャストとして出演。	
2004年12月16日 - 21日	米ラスベガスで World Juggling Federation による WJF Convention が開催され、ESPN2によるテレビ放映が行なわれる	Jason Garfield, Mark Bakalor らにより創立された WJF(World Juggling Federation) は、明確化された採点基準による「スポーツとしてのジャグリング競技会」を打ち出した。背景として、一部のプロやハイアマチュアによる、エンターテインメントよりも技術を指向したジャグリングの潮流がある。 http://www.thewjf.com/
2005年2月1日	米 youtube.com が無料の動画投稿サイトを開設する。 著作権的に問題のあるコンテンツが大量に投稿されるなどで世界的に大きな影響を与え、手軽な動画発表の場としてジャグリング界にも影響を与える。	
2005年6月7日	「大阪パフォーマー・ライセンス」制度発表	大阪市、近畿運輸局、大阪観光コンベンション協会などでつくる「OSAKAエンタテインメントフェスティバル実行委員会」が実施。

日本ジャグリング界 年表

2010/3/2

2005年7月20日-21日	IJA Stage Competitions (Davenport, Iowaにて) ジュニア部門(1位:桔梗崇/2位:青木康明/3位:進藤一宏) インディビジュアル部門(1位:矢部亮) チーム部門(2位:桔梗兄弟(篤,崇))	チャンピオンシップ入賞者の半数を日本人が占め、日本の台頭を印象付けた。
2005年8月12日-14日	JJF2005開催される。 日本ジャグリング協会主催のJJF(Japan Juggling Festival)第7回目が開催される。(大阪府立体育会館第二競技場)	参加者数:約290人 ゲスト:Ville Walo, 池田洋介 チャンピオンシップ入賞者 個人部門:小林智裕(リング)/潮木裕太(ボール)/ファリウ(ディアポロ) 審査員特別賞:今村勇太(ポイ) チーム部門:Einsatz アインザッツ(クラブ)/スピニングマスターズ(クラブ、ディアポロ)/Imaginary イマジナリー(デビルスティック)
2005年12月	有志により、全国複数の会場をインターネットで結び「第1回全国統一カスケード大会」が開催された。	第2回は2006年12月。
2005年12月15日-21日	第2回 WJF Convention(米・ラスベガス)	
2006年前半	Chris Bliss がビートルズの曲に合わせてジャグリングするビデオが世界的に大評判となる。	
2006年6月10日	世界大会入賞者などが共演する、ジャグリングのみのステージショー RealJuggling が東京で開催。	出演者は、KAZUHO、矢部亮、桔梗ブラザーズ、進藤一宏、青木康明、森田智博
2006年6月24日	東京でジャグリング公演「堀の外のジャグリング」開催。	出演者は、マジカルTOM、鶴岡アキラ、ひいろ、じょ〜むす今川、目黒陽介、SOBUKI、矢熊進之助
2006年7月19日-20日	IJA Stage Competitions (Portland, Oregonにて) インディビジュアル部門(2位:小嶋佑樹)	台湾からディアポロ使いが多数参加した。
2006年8月2日-6日	第3回 WJF Convention(米・ラスベガス)	
2006年10月7日-9日	JJF2006開催される。 日本ジャグリング協会主催のJJF(Japan Juggling Festival)第8回目が開催される。(国立オリンピック記念青少年総合センター)	参加者数:約440人 ゲスト:Thomas Dietz, Markus Furtner, Peter Gerber, 江戸太神楽・丸一仙翁社中 チャンピオンシップ入賞者 個人部門:大野覚/平野真幸/Weitao(衛涛) チーム部門:uCauCa(うきやうきや)
2007年2月7日-	シルク・ド・ソレイユ「ドラリオン」日本公演	

本年表の内容には、作成者の経験や活動領域から偏りが、あるいは間違いがあります。
お気づきの点は、何卒ご指摘を含めご意見等をお寄せ下さい。連絡先(チャン助) misc@chansuke.net